

▼子どもが多く参加した餅花作り体験



▼旧柴田家で飾られた「岩村城跡飾り」



▼住民100人が「かぐやびな」作りに参加



第11回 2013いわむら城下町のひなまつり

3月2日(土)～4月3日(水)
岩村本通り 他

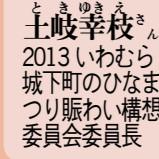
江戸時代から伝わるひな人形や土ひななどを約100カ所に展示。期間中には、多くのイベントが開催されます。

メイン会場 上町まちなか交流館、旧勝川家、旧柴田家

- 主なイベント**
- 3月2日(土) 宵のひなまつり(オープニング) 簡単着付け体験 餅花作り体験
 - 3月3日(日) 恵那・岩村まちなか市 クラフトワーク市
 - 3月10日(日) ちぎり絵でおひなさま作り
 - 3月17日(日) 楽市街道鍋まつり
 - 3月23日(土) 電柱地中化完成イベント 城下町ひなまつり音楽祭 宵のひなまつり
 - 3月24日(日) 茅の宿でおひなさま会
 - 3月31日(日) 茅の宿でおひなさま会 ひなの呈茶会

手づくりのおもてなしを用意

ことしは新たに2チームが増え、5チームで準備を進めています。新企画を加え、さらに大きな規模で開催します。住民手づくりのおもてなしのまつり「いわむら城下町のひなまつり」にぜひ、ご来場ください。



土岐幸枝さん 2013いわむら城下町のひなまつり賑わい構想委員会委員長

恵那のおひなさんめぐりを開催

3月から4月初旬にかけて、市内の南部地域でひな祭りの催しが「恵那のおひなさんめぐり」として開催されます。岩村町以外のひな祭り情報は、本紙13ページに掲載しています。

●霧ヶ城下の「かぐやびな」
住民が手作りした粘土ひなを青竹の中に飾り、通り沿いの家々の玄関先に取り付けました。

●オープニングイベント
岩村城女太鼓や雅楽などの演奏の他、女城主の生き方を演じた日本甲冑武者隊らによる女城主と武田軍との出会いの再現が上演されました。

●宵のひなまつり
岩村町独自のひな祭りづくりの1環として、夜のひな祭り「宵のひなまつり」を開催。ひな飾りのライトアップや大人が楽しめる紙芝居、あいち戦国姫隊の演舞など、幻想的な催しとなりました。

●3会場でのひな飾り
通り沿いの旧家の柴田家は「ゆかしき里」会場、勝川家は「岩村竹物

●体験事業
期間中の土日祝日に、餅花作り体験や、からすみアート体験、手づくりひな体験などを開催。子どもや来訪者が手作り体験を楽しみました。

●この内容は一層充実
3月2日(土)から4月3日(水)までは、「2013いわむら城下町のひなまつり」が開催されます。ことしは、昨年の催しに加え、新たな企画も行われます。中でも、注目は3月23日(土)に開催する「城下町縦断!ながーいながーいテープカット!」。3月には、岩村本通りの電線類地中化工事などで新たな景観や資産が誕生。こ

の景観などを生かした「賑わいのあるまちづくり」のプログラム(物語の序章)とするため、岩村本通り(重要伝統的建造物群保存地区)を舞台に総延長約1.3キロのテープカットイベントを行います。本通りを縦断するテープをみんなで切り、その門出を祝います。

また、ひなまつり構想委員会の会員を中心に、ゆかしき里いわむらのお姉様ゆるキャラ「いわむらせんしょ隊」を結成。町のちょっとした観光案内人として、来訪者にとっての日常的な情報を提供します。

その他、体験事業では、新たに着物着付け体験が計画されています。最新情報は、城下町ホットいわむらウェブサイト (<http://hot-iwanura.com/>) で確認ください。

いわむら城下町のひなまつり まち全体でおもてなし

平成15年から岩村町で行われてきた「いわむら城下町のひなまつり」は、昨年、多くの住民が協力して「まち全体でおもてなし」をする催しに変貌を遂げました。ここでは「ひな祭り」を題材に、まちの活性化を目指す岩村町の取り組みと、ことし行われる同祭りについて紹介します。

□問い合わせ 岩村振興事務所 43-2111

▲宵のひなまつりは、ひな飾りのライトアップなどで幻想的な雰囲気を醸し出す



▼軒先に飾る「霧ヶ城下のかぐやびな」は多くの住民が手作り

ひな祭りでもちを活性化
岩村町では、他の市町村に先駆けて、平成15年から恵南商工会女性部岩村支部が中心となって、「いわむら城下町のひなまつり」を開催してきました。城下町の岩村本通り沿いの店先などに、ひな人形を展示したり、抹茶を提供したりして、来訪者を楽しませてきました。

一昨年、岩村城跡と岩村城下町が県の「明日の宝もの」に認定されました。県では、全国に通用する県民が誇るふるさとの自慢となるものを「岐阜の宝もの」、今後の取り組みで「岐阜の宝もの」になると期待されるものを「明日の宝もの」としています。

これを受け、岩村町では、「岐阜の宝もの」への格上げを目指した取り組みが始まりました。伸び悩んでいた観光客数を増加させる課題も含め、検討がなされました。

手始めは、催しを盛り上げ、もっとまちを活性化させることでした。注目したのは、多くの催しの中でも、開催期間が長い「いわむら城下町のひなまつり」。昨年は、ちょうど第10回目の節目を迎える年でした。

その前年の夏、ひな祭りをテーマにした座談会「いわむら夏の陣」を開催。同年9月、「いわむら城下町ひなまつり賑わい構想委員会」が組織されました。ここでは、新しいひな

祭りに向けて、「岩村町全体でのおもてなし」をテーマに、祭りに関わる人を増やしながらか、さまざまな企画に「実験、実践、挑戦」をしていくことになりました。

三つのチームで仕事を分担
構想委員会では、執行部の他、三つのチームで仕事を分担。企画などを担当する「笑チーム」、おもてなしなどを担当する「美チーム」、広報などを担当する「知チーム」の3チームです。それぞれ、何度も会議や作業が行われ、準備がされました。

構想委員会には、約80人が関わりました。みんなのアイデアと行動力によって、さまざまな新しい企画が展開されました。また委員会の呼び掛けで、その他の町民も協力。町並みに飾る「かぐやびな」作りや、餅花作りに参加した一般町民や高校生、園児、飾り付けに参加した岩村コミュニティセンターの講座の受講生など、大勢の力が結集されました。

多くの趣向凝らした企画
昨年の「2012いわむら城下町のひなまつり」は、90カ所を超える場所でのひな人形の展示や、趣向を凝らした企画を1カ月にわたり行う大きな催しに発展しました。

昨年初めて行われた企画の一例を紹介します。